

事例調査報告書 ②三重県総合博物館（概要版）



施設名	三重県総合博物館	
施設概要	所在地	〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 3060
	開館	2014年4月19日
	施設機能	博物館、公文書館
	敷地面積	38,884 m ²
	建築面積	6,889 m ²
	延床面積	11,705 m ²
	階層	地上3階
	設計	建築：日本設計／展示：トータルメディア開発研究所
沿革	2008年3月 「三重の文化振興方針」および「新県立博物館基本構想」を策定	
	2008年12月 「新県立博物館基本計画」を策定	
	2009年3月 「新県立博物館事業実施方針」を作成	
	2013年4月 新県立博物館建築工事竣工	
	2014年4月 開館	
調査目的	博物館と公文書館機能の一体化を日本で初めて本格的に実施した館であり、公文書を一体的に扱うことによって活動の充実とレファレンス、発信機能の強化を意義として謳っている。また、三重県立図書館を含む三重県総合文化センターと隣接し、三重県立美術館とも近接する位置にあり、全体で「文化交流ゾーン」を形成している。こうした特徴から、「知の拠点」を目指す新千葉県立図書館の参考となる事例として調査を実施した。	

調査結果（調査日 2018 年 6 月 20 日 ご対応者：調査・資料情報課 藤谷彰 主幹（課長代理）、
経営戦略広報課 中村千恵 学芸員）

<p>施設のあり方、 整備コンセプト</p>	<p><u>館のコンセプトについて</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 総合文化センター、県立美術館とともに、「文化交流ゾーン」として一体的に整備 • 三重県の歴史をすべて知ることができる、知的な学習拠点 <ul style="list-style-type: none"> ➢ ひとつの建物、ひとつの組織の中で一体的に資料を管理 ➢ 歴史的公文書＝県の歴史を語る資料、歴史的資料の一つ • 活動理念「ともに考え、活動し、成長する博物館」 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 計画段階から現在まで、県民や企業を含む多様な主体と連携 <p><u>施設の整備方針</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 利用者向けの空間では、基本的に常設展示室と企画展示室のみ有料 • その他の部分は自由に使用できる交流ゾーン <ul style="list-style-type: none"> ➢ 特にこども体験展示室は未就学児から三重県の自然や身近な暮らしの歴史について楽しく学ぶことができる施設として人気である。 • 資料閲覧室では資料を請求し、昆虫の標本や剥製、古文書、公文書を閲覧できる <p><u>運営組織の体制</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 経営戦略広報課、展示・交流事業課、調査・資料情報課という 3 課体制で運営 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 総務的な役割の経営戦略課にも学芸員を配置 ➢ アーカイブズ学と保存科学の担当職員をそれぞれ配置 という 2 点が特徴。
<p>公文書館機能に ついて</p>	<p><u>公文書館機能の範囲</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 他県の公文書館と異なり、文書の評価・選別は担当せず、選別後の歴史的公文書についての整理・保存・閲覧提供を担当 <p><u>閲覧手続きと選別移管歴史的公文書の審査</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 目録はインターネットまたは館内の情報検索端末で検索。紙媒体では現在提供せず。 • 閲覧申請は基本的には事前予約。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 選別移管公文書については当館および原課による事前審査が必要。 <p><u>所管</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 施設は教育委員会の所管だが、知事部局への管理委任となっている。
<p>MLA 連携等による新しい機能・サービス</p>	<p><u>企画・事業等</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 公文書の企画展を実施したり、資料閲覧室に実物や実物図鑑を設置したりといった、博物館のノウハウを活かした公文書資料の展示を実施。 • 文化交流ゾーンの中での施設会議で情報共有し、当館の展示に合わせて PR を実施。

	<ul style="list-style-type: none"> • 以前は図書館が当館に図書を持ち込んでの移動図書館事業も行ってた。 • 収蔵資料に関する連携はあまりなく、広報の協力といった事業レベルの取り組みがほとんどである。
複合施設としたことによる効果	<p><u>立ち寄り効果、出会いの創出</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 目的の違う利用者が三重の歴史といったキーワードによって出会う可能性。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ そういったところで新しい研究の方向性や資料との出会いが生まれる。 <p><u>コスト節減効果</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • それぞれ単館での構想にハコモノ抑制でストップがかかり、新博物館計画の再検討の中で複合施設とすることが進められてきた経緯がある。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 一体化のメリットとしてコスト節減効果は当然あるという認識である。
資料の管理・保存	<p><u>資料統合検索システム</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 資料の目録は館内で検索でき、Webでも公開。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 博物館資料と公文書館資料とどちらも検索可能。 <p><u>資料管理方針について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 公文書館の立場から見ると、博物館の資料保存には学ぶところがある。 • 一方で、アーカイブの世界ではそこまでやっていると言っていると閲覧に追いつかない。資料に対する扱いも異なり、そのせめぎあいがある。 <p><u>燻蒸</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 基本的にはIPMを行い、できるだけ燻蒸しないでやっていこうという考え方。 • 全館燻蒸は開館前の1回のみ。あとは資料の受け入れ時にこまめに点検して、必要なときだけ実施。燻蒸設備はそれでもフル稼働の状況である。 • 保存科学の学芸員が1人配置されており、施設の保存管理やIPM管理の助言を行っている。 <p><u>収蔵庫の温湿度管理</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 年中24時間空調は費用的に厳しいため、保存科学の担当者等が状況を見ながら空調管理を行っている。
課題	<p><u>人的資源に関する課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 一体化における注意点として、必要な専門家はきちんと確保する必要がある。 • 博物館の中の各分野に加えて公文書館があり、それぞれアウトプットの仕方や館の中での位置づけが異なる。職員の相互理解をより深める必要がある。

資料管理に関する課題

- 古文書の整理は遅れており、展示に使うとなったものから整理している状況で、未整理のものもまだ残っている。そういったものはシステム上から見えない状態。

施設に関する課題

- 収蔵率については、寄贈・寄託が多く、そろそろ受入も厳しい。
- 仮置きスペースは広めに考えたほうがよい。当館は仮置き場が少なく、トラックヤードが、その予定ではなかったのに仮置場と化している。

運営方針に関する課題

- 複合化では本来別々の機能をひとつの館に入れることになる。その摩擦が生じる中で、一つの機能だけが前面に出すぎて、他の機能が陰に隠れてしまわないようにする必要がある。